

Column

知らなかった!
天国の海の秘密

地震によって生まれた浅瀬
近年では、地震で陥没した土地に海水が入り込みカネオヘ湾を形成。陥没しなかった部分が珊瑚礁の島となったという説が有力

全米最大・最長のサンゴ礁
カネオヘ湾のサンゴ礁は全米最長・最大。世界の研究機関からも重要な場所として認識され、ハワイ州で大切に保護されている

50種以上の魚やウミガメが多く生息
珊瑚礁が壁の役割を果たし、サメなどの外敵が入ってこないため、ウミガメが多く生息する。運がよければカメラで囲まれることも

女神ベレの妹ラカの伝説
伝説では、女神ベレの妹ラカがベレから譲り受けた地とされる。フラが禁じられた時代も密かにフラが踊られていた聖地でもある

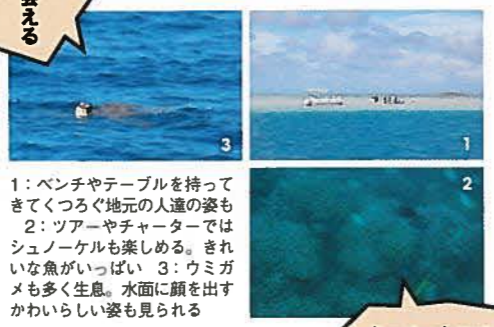
自然によって生み出された
水深20mと30cmの、海の中に生まれた崖

クルーザーをチャーターしてでも訪れるべき奇跡の地
「もうすぐ2時だから急がないと。この季節、一番きれいなサンドバーが見える時間なんです」
カネオヘ・サンドバーでツアーを手掛けて20年を迎えるブルースさんと菅原明子さんに案内され、カネオヘ湾の港からボートを飛ばすこと約10分。陸から約800mほど離れた沖合、充分深いはずの海の中に突如、白砂の浅瀬が見えてきた。人々が海の中に立つてビーチバレーをしたり、歩き回ったりしている不思議な光景を目の当たりにする。
「海の色が2色に分かれているのが見えるでしょう。青い方は水深20m、でも白い浅瀬は膝下の浅さ。つまり、海の中の崖。潮の満ち引き

や天気によってさまざまな表情を見せてくれるのよ」と明子さん。この海を知り尽くしているブルースさんとともに、その日の天気や状況を読みながら、今一番いい場所へと連れて行ってくれる。膝まで水につかり、周りを見渡すと360度広がる海。遠くにそびえるコオラウ山脈も、ぼつかりと浮かぶモコロイ島(チャイナマツ・ハット)も、海から見るとまた違う美しさがあつた。
サンドバーは、全米で最大・最長の珊瑚礁を持つ地として保護されており、現在は4社のツアーでしか観

光客はアクセスできない。中でもキヤプテン・ブルースのツアーは、最も早い時期に営業許可を取得したため、4社の中でも一番浅いメインサンドバーにアクセスすることができ、実際にサンドバーウォーキングも体験できる。
浅瀬に立ち、北方面を眺めると、美しい山のひだが。天気や時間帯によって、見え方や水の深さは前後する

幸運を運ぶウミガメに会える



1: ベンチやテーブルを持ってきてくつろぐ地元の人達の姿も 2: ツアーやチャーターではシュノーケルも楽しめる。きれいな魚がいっぱい 3: ウミガメも多く生息。水面に顔を出すかわいらしい姿も見られる

シュノーケルのポイントも!

3時間たっぷり満喫できる
チャーターツアー



1: ボート内でランチや軽食も楽しめる 2: チャーターは6人まで乗船可能 3: カネオヘ湾を知り尽くしたブルースさんと明子さんが、この地の数々の魅力を紹介してくれる

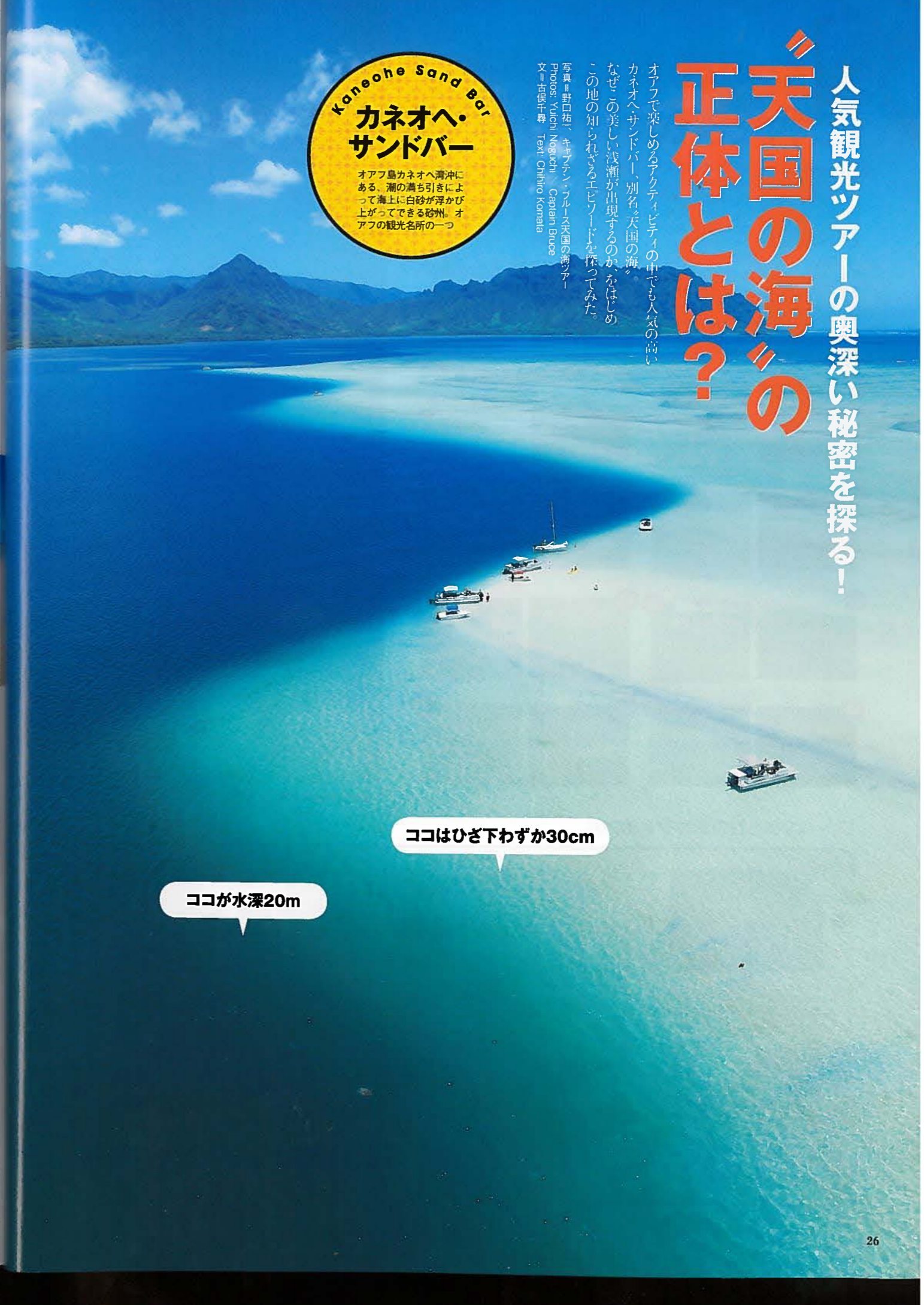
Data
キャプテン・ブルース
天国の海ツアー
親切! 天国の海
☎808-922-2343
http://tengokunoumi.com/
時間: 8:00~13:30, 11:30~17:30
料金: \$700
(6名まで貸し切り。用具レンタル、スナック、飲み物、往復送迎)
※通常ツアー(1名\$89~もあり)。
MAP: P134

Kaneohe Sand Bar
カネオヘ・サンドバー

オアフ島カネオヘ湾沖にある。潮の満ち引きによって海上に白砂が浮かび上がることができる砂州。オアフの観光名所の一つ

オアフで楽しめるアクティビティの中でも人気の高いカネオヘ・サンドバー、別名「天国の海」。なぜこの美しい浅瀬が出現するのか、をばしめこの地の知られざるエピソードを探ってみました。
写真: 野口祐一、キョウテン・ブルース天国の海ツアー
Photos: Yuichi Noguchi, Captain Bruce
文: 佐藤千尋 Text: Chihito Komata

人気観光ツアーの奥深い秘密を探る!
天国の海の正体とは?



ココはひざ下わずか30cm

ココが水深20m

このあたりは「ヘイアケア」と呼ばれ、ハワイ語で「天国の扉」という意味を持つ。伝説では女神ベレの妹のラカが、毎日フラを踊り、ベレに祈りを捧げることを条件に譲り受けた場所とされる。ハワイでは神聖な場所であり、フラが禁止された時代には、人目につかないこのサンドバーで、ダンサー達がカヒコ(古典フラ)を踊ったという話も残っている。「天

本誌が提案するベストな楽しみ方はコレ

「サンドバーの最も深い楽しみ方」は、貸切ツアーを申し込むこと。団体ツアーと離れ、サンドバー周辺で思い思いに時間を配分しながら、自由に過ごせるからだ。プライベート感に加え、専任スタッフがつく安心感もある。